



(特活)ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金 ニュースレター 2017年5月発行



メルセデス小学校の第二校舎が無事完成しました！ご支援ありがとうございました！

目次

1. パラグアイ・カアグアス県メルセデス小学校第二教室完成！ならびに調印式
2. パラグアイスラムの若者たちとの連携・カメラ機材一式贈呈
3. 第5回パラグアイフェスティバルへの出店
4. JICA 広報誌『mundi』に記事掲載
5. グローバルフェスタへの出展
6. 協力隊まつり 2017 への出店
7. ミタイ基金現地インターン着任のご挨拶
8. 理事会の開催

特定非営利活動法人ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金 責任編集：代表理事 藤掛洋子

広報：齋藤誠仁、学生代表：近藤真央

郵便物送付先：〒162-8433 東京都新宿区市ヶ谷本村町 10-5

JICA 地球ひろば メールボックス 12

E-mail: mitai.jk@gmail.com

URL: <http://mitai-mitakunai.com/>





1. パラグアイ・カアグアス県メルセデス小学校第二教室完成ならびに調印式

久喜淳史さんが代表で挑戦させて頂きましたクラウド・ファンディングは2016年8月12日に目標達成いたしました。ご支援を頂きました皆様方には改めて厚く御礼申し上げます。皆様からのご支援を2016年9月、現地に届けました。その資金のお陰で無事第二教室が完成いたしました（2017年2月28日に写真：左・右）。シプリアナ校長先生をはじめ保護者の皆様方も大変喜んでおられました。65名の小学生たちは新しい教室で一生懸命勉強しています。2010年には学校がなかったこの地域にこのような立派な校舎ができたことに改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました（第一教室は若林美代先生のご支援によります）。



2. パラグアイスラムの若者たちとの連携・カメラ機材一式贈呈

パラグアイのスラム・バニヤード（通称：カテウラ）に住む若者たちが組織しているNPOJuvenSurのメンバーとミタイ基金が連携した活動をはじめ3年目になりました。現地でのヒアリングや学生部のメンバーによるソーシャル・ネットワークを通じた意見交換などを通し、共に出来る活動を模索してきました。この度、横浜保土ヶ谷ライオンズクラブ様よりご支援頂き、本基金を通じNPOJuvenSurのメンバーにカメラ機材一式を贈呈しました。JuvenSurのメンバーたちはこのカメラを使い、スラムの状況をさらに調査するとともに、スラムの生活改善のためのプロジェクトをミタイ基金とともに展開していくことになっております。引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。文責：広報・齋藤誠仁



3. 第5回パラグアイフェスティバルへの出店

10月16日（日）、練馬区光が丘公園けやき広場にて開催された第5回パラグアイフェスティバルに学生部が中心となり出展させて頂きました。たくさんの方々が本基金のブースにお越し下さりフェアトレード商品を手にとって頂き、やりがいを感じる事ができました。ご来場頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

文責：学生代表・近藤真央、広報・齋藤誠仁



4. JICA 広報誌『mundi』に記事掲載

JICA 広報誌『mundi』1月号にパラグアイの伝統工芸品「ニヤンドウティ」の記事を掲載していただきました。記事の中では、ミタイ基金が取り組む「ニヤンドウティ」のフェアトレードについても紹介頂きました。JICA 広報担当の方々には心より感謝申し上げます。

文責：広報・齋藤誠仁



こちらが JICA 広報誌『mundi』1月号の記事になります。



©Yuki Asada

蜘蛛の巣が広げる人々の未来

カラフルな木綿の糸を用いたレースの編み物「ニヤンドゥティ」。パラグアイの先住民ガラニーの言葉で「蜘蛛の巣」を意味するニヤンドゥティは、木枠に張った布に刺しゅうしてのりで固めた後、刺しゅう部分を切り取ったもの。壁掛けやテーブルクロス、ドレスなど、さまざまな用途がある同国伝統の手工芸品だ。完成まで1週間から数カ月もかかるほど手が込んでいるものもあるが、仕入れ業者に安く買われることも多く、作り手が減少し、深刻な後継者不足に陥っている。

このニヤンドゥティを農村の女性から適正価格で買い取って日本で販売し、その収益などで現地の教育支援を行っているのが、「(特活)ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金」(以下、ミタイ基金)だ。1995

年の設立以来、農村部に1つの幼稚園と3つの小学校を建設した。「もう昔の私ではない」——地域にできた学校の成人クラスで学んだ女性の言葉には、農村部に根強く残るマチスモ(男性優位)思想を変化させる可能性が見て取れる。

ミタイ基金には約20人の大学生が活躍する学生部がある。彼らはニヤンドゥティの買い付けや販売の他、学校建設にも汗を流す。「私たちの活動が子どもたちの未来を広げるかもしれないと思うとワクワクする」と学生部の高井里菜さん。広報担当の齋藤誠仁さんは「フェアトレードを通じて作り手の暮らしを守り、伝統工芸品ニヤンドゥティという文化を残したい」と話す。今後は首都のスラムでの支援なども計画しているそうだ。



刺しゅうの上からキャッサバのでんぷんを塗布したところ。これを乾燥させて刺しゅう部分を切り取るとニヤンドゥティが完成する

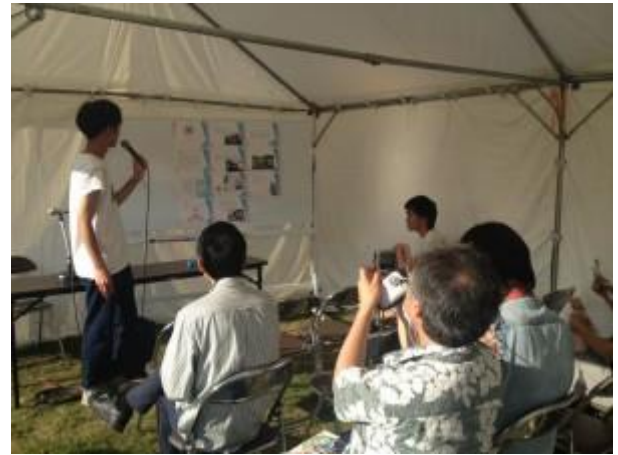
- ★パラグアイのニヤンドゥティを1人にプレゼント!
→詳細は38ページへ
- ★商品は横浜国立大学の大学祭やグローバルフェスタJAPAN、パラグアイフェスティバルに出店するミタイ基金ブース、ミタイ基金と連携するショップなどで購入できる他、メールでの購入問い合わせにも対応しています。mitai.jk@gmail.com





5. グローバルフェスタへの出展

10月1日、2日の二日間、お台場センタープロムナードにて開催されたグローバルフェスタ JAPAN2016 にミタイ基金もブースを出しました。自分たちでパラグアイより持ち帰ってきたフェアトレードの商品を展示し、多くの方にお買い求め頂きました。また、活動報告コーナーでは自らの現地での経験を話す機会を頂き、たくさんの方々に本基金の活動について知って頂くことができたと思います。今回で3回目の出展となるグロフェスですが、今年も多くの方々にお越し頂き、大盛況となりました。メンバー一同より感謝申し上げます。文責：近藤真央



6. 協力隊まつり 2017 への出店

2017年4月22日(土)にJICA地球ひろば(JICA市ヶ谷ビル)にて開催された協力隊まつり 2017に出店させて頂きました。地球ひろばでは、学生部のメンバーによるフェアトレード商品の販売ならびに学生部による活動報告もさせて頂きました。また、午後には「トンガ王国 JOCV クロストーク」と題しまして、本基金の代表理事である藤掛洋子及び学生部のメンバーでもあり、協力隊隊員としてトンガ王国への派遣を経験した学生による報告会も開催させて頂きました。国際協力の現場において学生で何ができるか、日々考え行動しております。至らぬ点多々ありますが引き続きご指導・ご鞭撻を頂きたくどうぞよろしくお願いいたします。



文責：近藤真央・齋藤誠仁

7. ミタイ基金現地インターン着任のご挨拶

学生部で活動していた久保田玲海(れいみ)(横浜国立大学教育人間科学部人間文化課程)さんがミタイ基金現地インターンとして4月12日にパラグアイに到着しました。久保田さんからのメッセージです。

「大好きなパラグアイで活動できることをとても嬉しく思っております。今後の活動も随時報告していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。」



8. 理事会の開催

5月22日(土)17:15~16時30分までJICA地球ひろばにおいてミタイ基金理事会を開催いたしました。代表・副代表・理事・学生メンバーとともに今後の活動について話し合うとともに、第二回クラウド・ファンディングを実施することが決議されましたのでご報告いたします。



皆様のご支援に改めまして心より感謝申し上げます。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

代表理事藤掛洋子ならびに関係者一同

以上